

コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン

Redesigning Communities for Aged Society

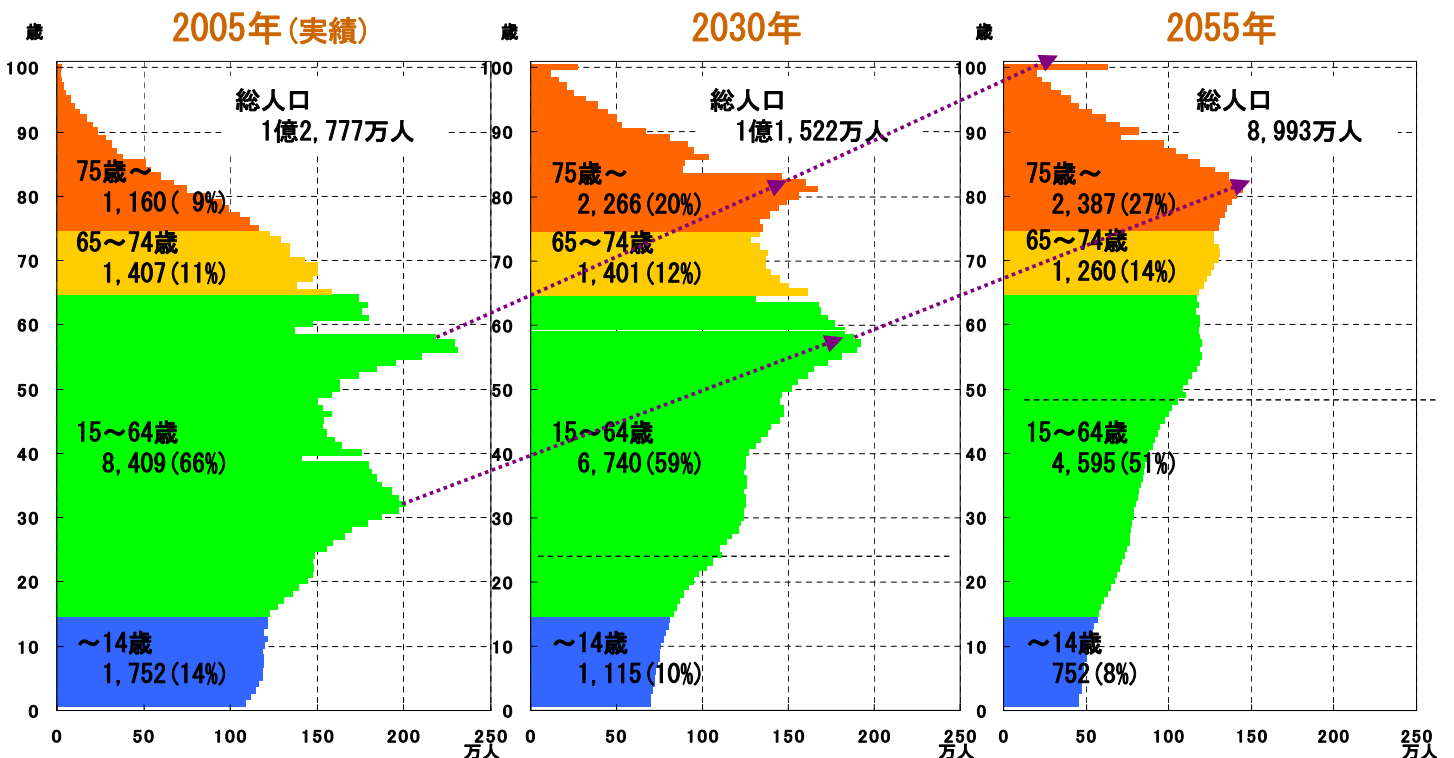
領域総括

秋山 弘子

(東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授)

高齢者人口の高齢化

—平成18年中位推計—

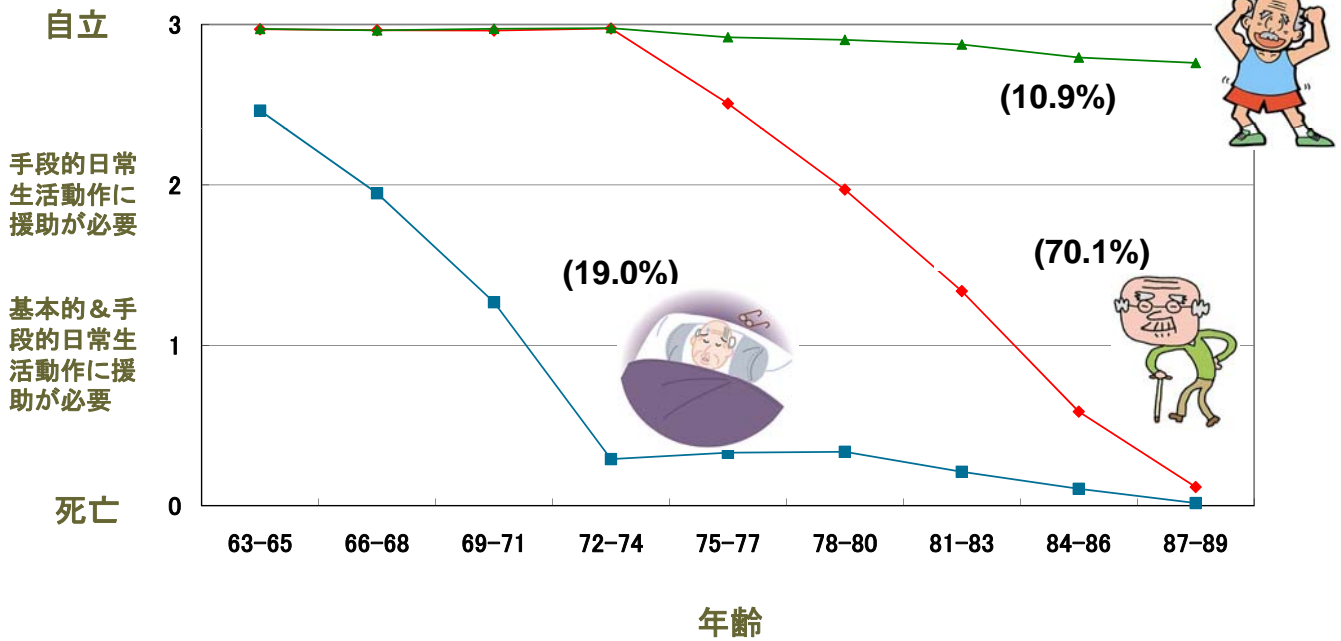


注: 2005年は国勢調査結果。総人口には年齢不詳人口を含むため、年齢階級別人口の合計と一致しない。

自立度の変化パターン

全国高齢者20年の追跡調査 (N=5717)

男性

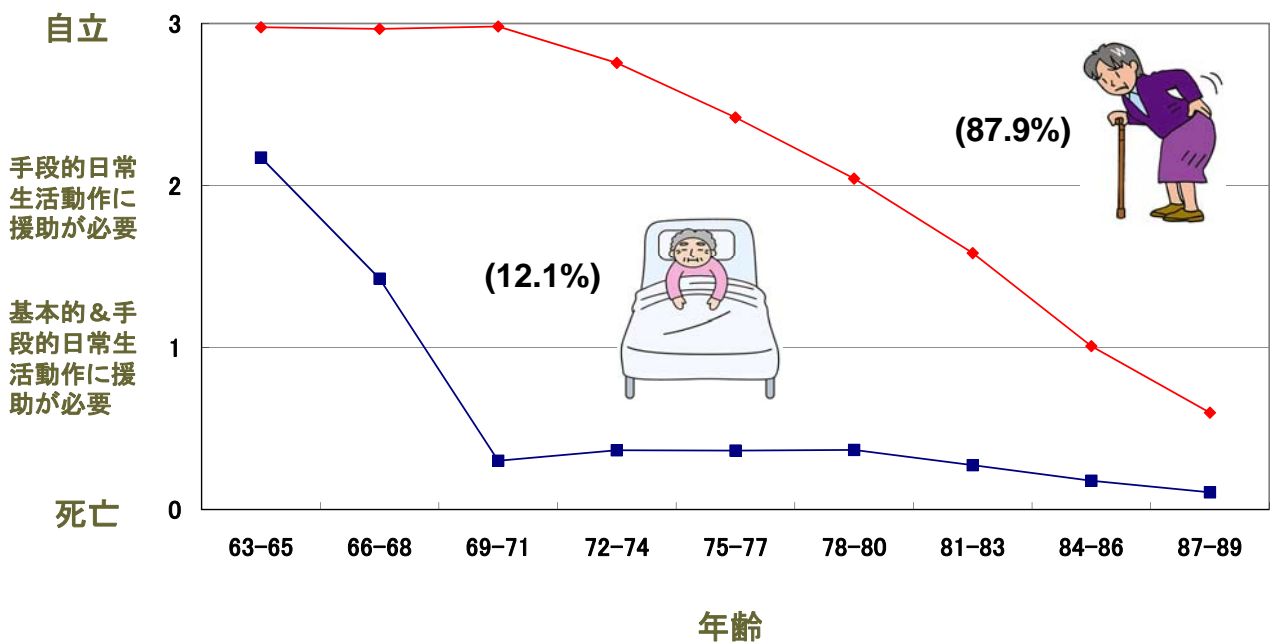


出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』 岩波書店, 2010

自立度の変化パターン

全国高齢者20年の追跡調査 (N=5717)

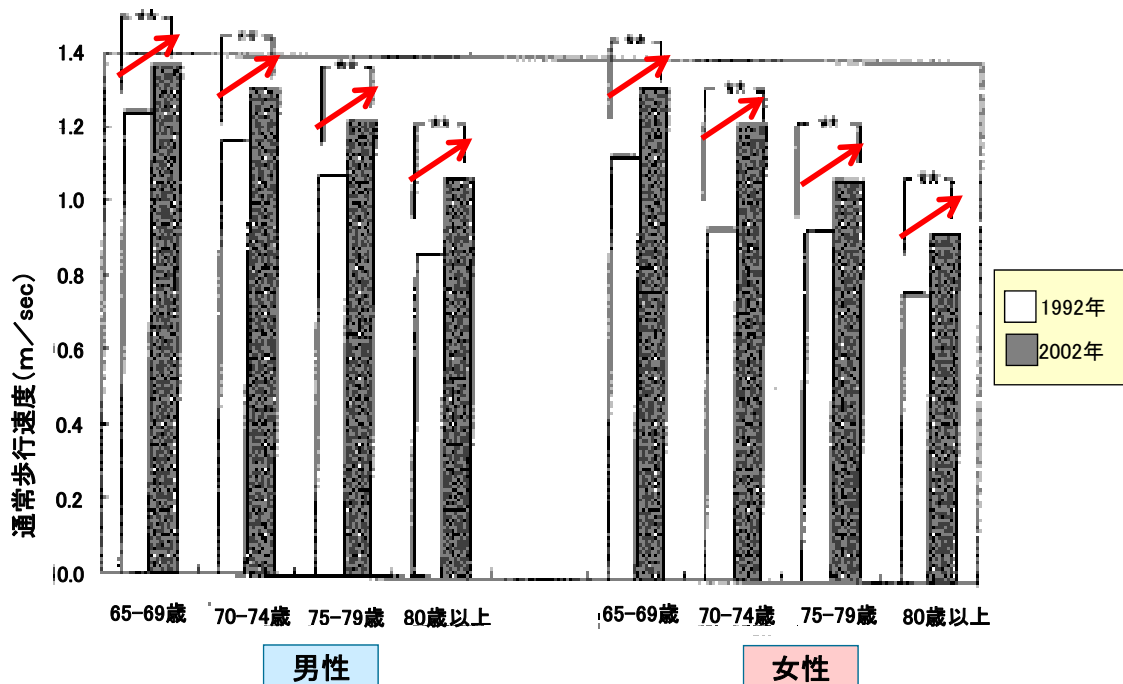
女性



出典) 秋山弘子 長寿時代の科学と社会の構想 『科学』 岩波書店, 2010

高齢者は若返っている！

10年前(1992年)と今(2002年)の高齢者の通常歩行速度を比べてみると、男女ともに**11歳**若返っている！(ex.今の75歳は昔の64歳！)



資料: 鈴木隆雄他「日本人高齢者における身体機能の縦断的・横断的变化に関する研究」(第53巻第4号「厚生指標」2006年4月,p1-10)より引用

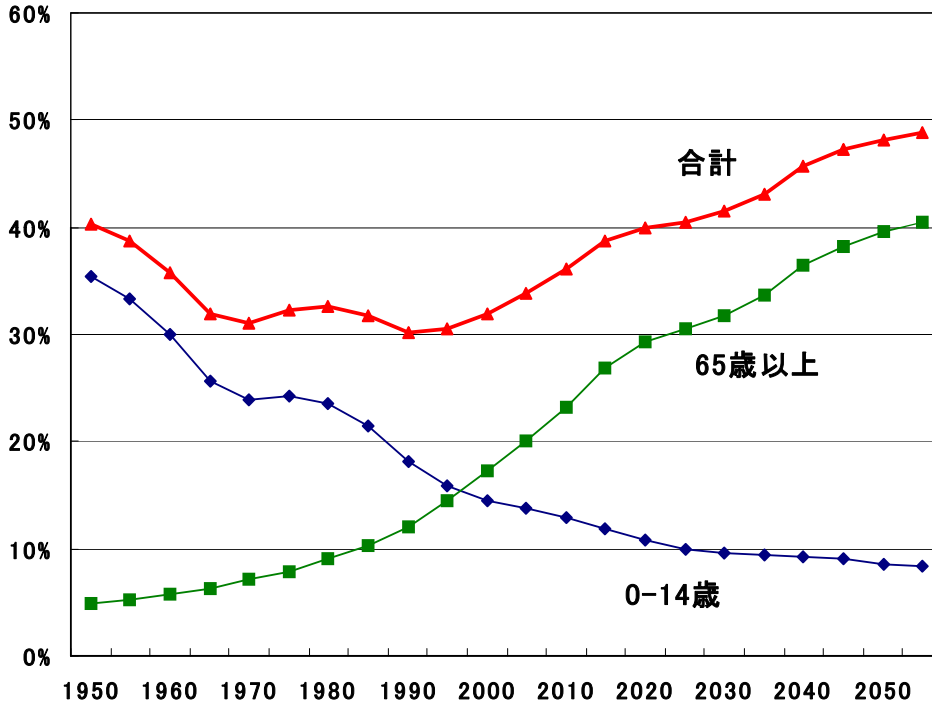
7

超高齢社会の課題

1. 自立期間(健康寿命)の延長
2. 住み慣れたところで日常生活の継続を支える生活環境の整備

8

地域密着人口の推移



2005年までは国勢調査、2010年以降は「日本の将来推計人口」(平成18年12月推計)
 (出典) 広井良典『コミュニティを問い直す』ちくま新書 2009

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域のイメージ

研究開発領域

領域総括

領域アドバイザー

規模: 6年 20億円程度

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

領域の目標

- (A) 地域やコミュニティの現場の現状と問題を科学的根拠に基づき分析・把握・予測、実践的研究により、問題解決に資する新しい成果を創出。
- (B) 高齢社会に関わる研究開発の新しい手法、科学的評価のための指標等を、学際的・職際的知見・手法に基づき体系化、提示。
- (C) 研究開発拠点の構築、関与者間のネットワーク形成、継続的な取り組みや他地域への展開の原動力創出。多世代の理解促進。

研究開発プログラム

研究開発プロジェクト(複数公募)

研究開発体制: 大学、自治体、NPO、企業等の連携

プロジェクト#1

プロジェクト#2

プロジェクト#3

プロジェクト#4

プロジェクト#5

プロジェクト#6

カテゴリII (社会問題解決に資する具体的技術・手法等を実証)

年間20~30百万円程度上限

- ① 高齢者が陥りやすい危機的状況の回避と回復のための仕組み作り
- ② 認知症高齢者の社会での受容と新しい社会秩序のあり方
- ③ 新たなパーソナルモビリティと安全な移動空間づくり

カテゴリI (社会問題解決の選択肢提示)

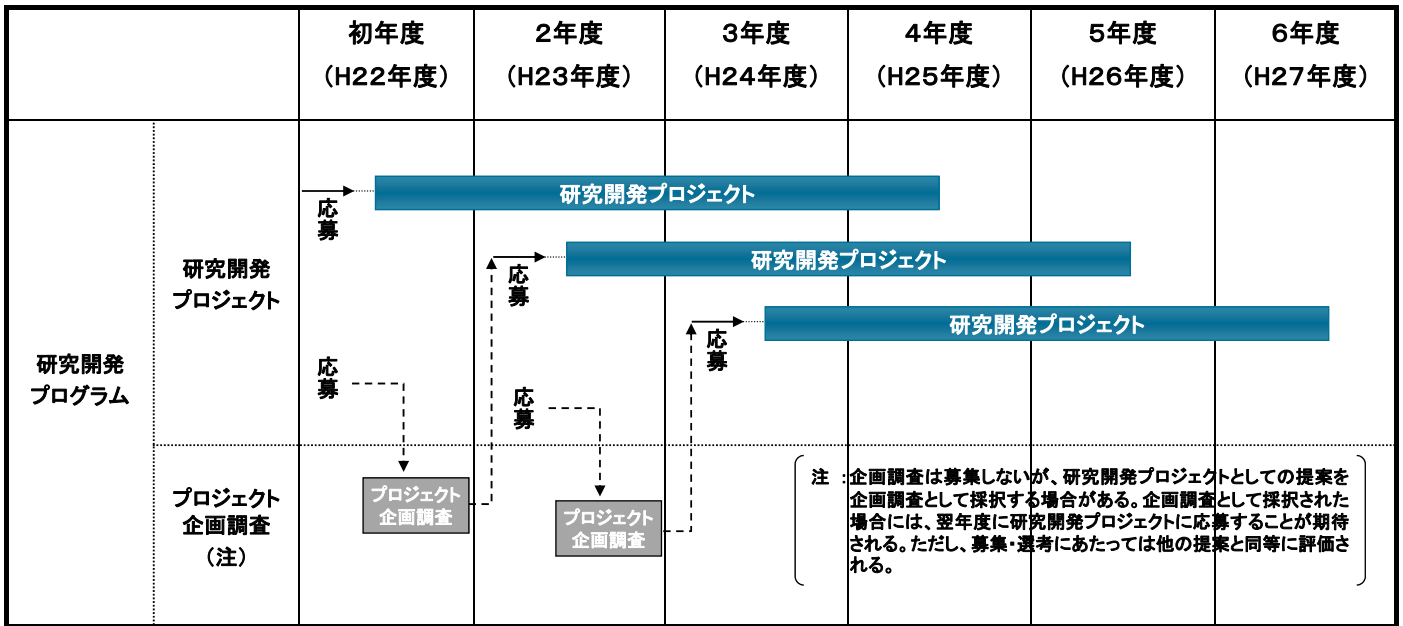
年間10百万円未満

- ④ 高齢者、現場のニーズを捉えた機器開発、環境整備のあり方の検討
- ⑤ 社会における実証実験を推進する上での阻害要因等の整理と解決策等の研究手法の開拓

⑥ その他、高齢社会の問題解決のための新しいアイデアに基づく、広い視野に立った提案

研究開発プロジェクトのイメージ例

研究開発プログラムのスケジュール



11

平成22年度 研究開発プログラム選考結果

■ 応募総数：110件

- ・ カテゴリーⅠ 16件
- ・ カテゴリーⅡ 94件

■ 採択件数：6件

- ・ カテゴリーⅠ 2件
- ・ カテゴリーⅡ 2件
- ・ プロジェクト企画調査※1 2件

＜応募数および選考数：所属機関別＞

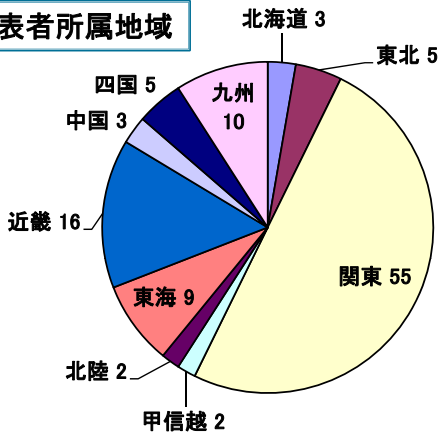
課題の 種類		国大	公大	私大	国研 独法	地方公 共同体	公益	企業	NPO	その他	合計
研究開発 プロジェクト	応募数	38	9	26	2	4	6	12	6	7	110
	面接数	5	1	0	1	0	0	1	1	1	10
	採択数	1	1	0	1	0	0	0	0	1	4
プロジェクト 企画調査※1	採択数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2

※1 研究開発プロジェクトの提案のうち、構想としては優れていても研究開発プロジェクトとして実施するためにはさらなる具体化が必要なものについて、プロジェクト企画調査に変更して採択した。

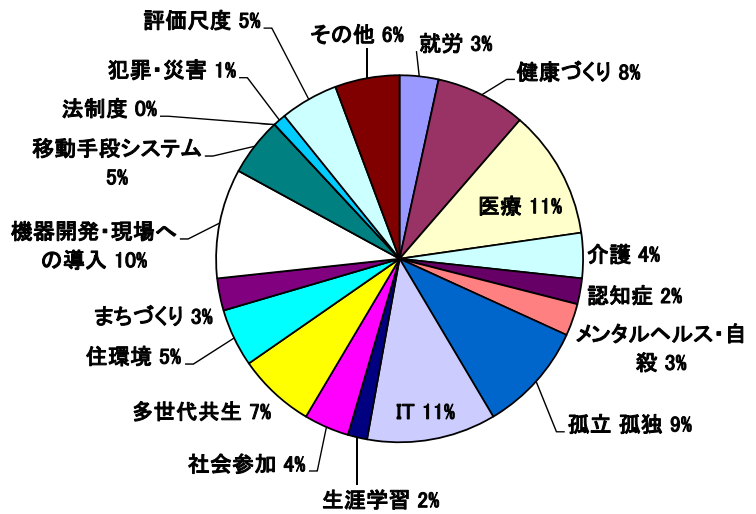
12

平成22年度提案応募状況と分布(応募総数:110件)

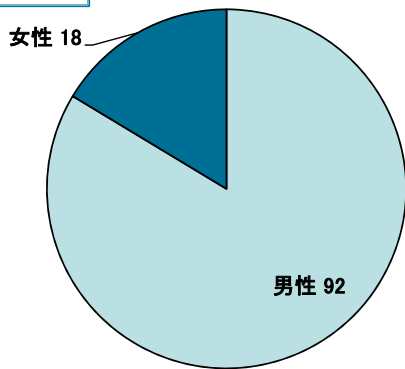
代表者所属地域



提案分野



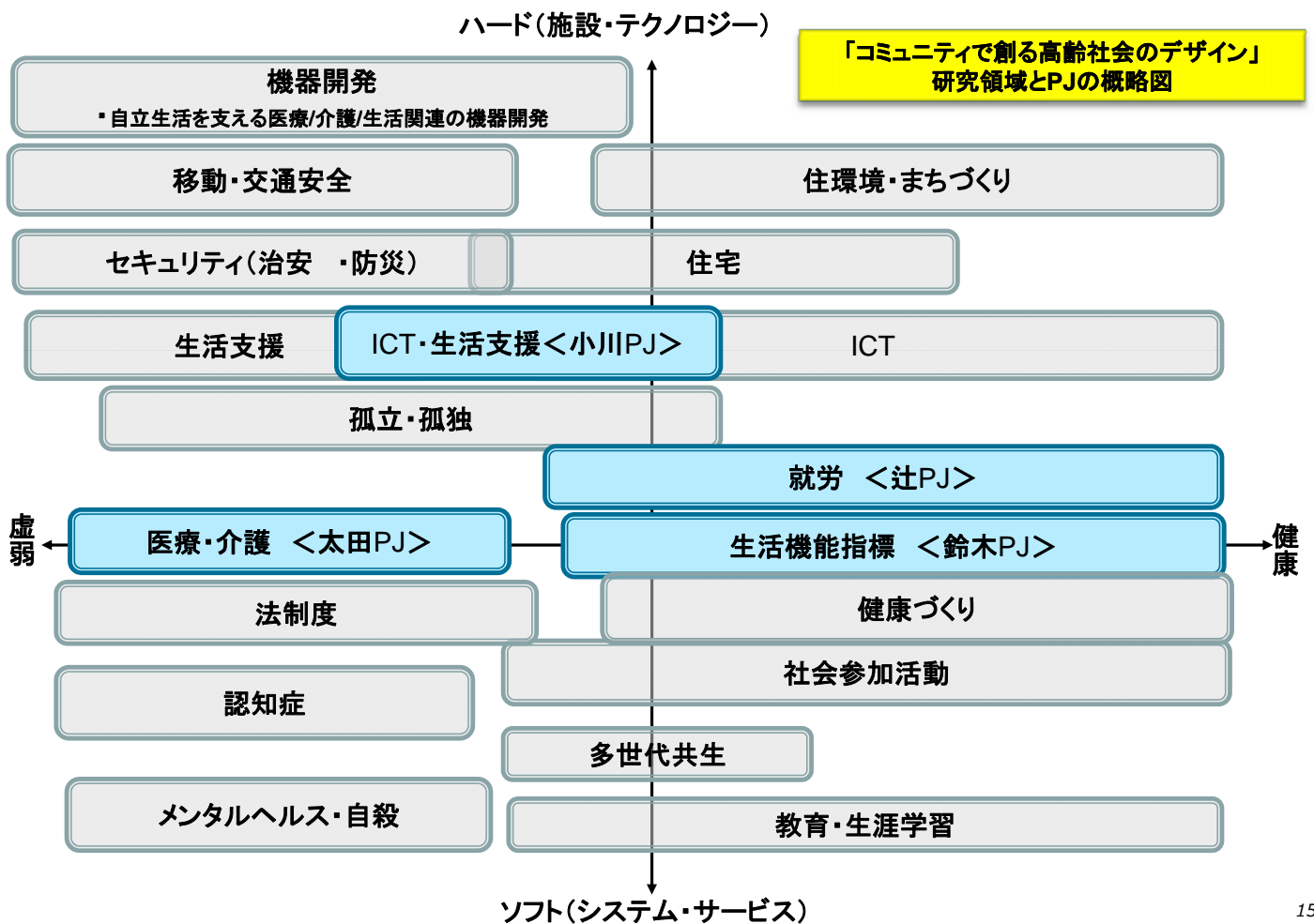
代表者性別



※1提案につき、該当分野を2つまで選択した

平成22年度採択課題(研究開発プロジェクト)

カテゴリ	題名	研究代表者名 所属 役職	分野	コミュニティ	研究開発に協力する関与者	期間
I	在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発	太田 秀樹 医療法人アスミス 理事長	医療	栃木県栃木市 茨城県結城市	・株式会社 メディカルグリーン ・オリープ訪問看護ステーション ・自治医科大学 ・栃木市保健福祉部福祉トータルサポートセンター ・一般社団法人 コープ福祉事業所 他	3年
I	新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発	鈴木 隆雄 独立行政法人 国立長寿 医療研究センター 研究所長	評価尺度	東京都板橋区 地方農村部	・東京都健康長寿医療センター ・特定非営利活動法人 生活・福祉環境づくり21	3年
II	ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり	小川 晃子 岩手県立大学社会福祉学 部・地域連携本部 教授/副本部長	IT/孤立	盛岡市桜城地区 盛岡市松園地区 岩手県滝沢村 宮古市川井地区	・岩手県保健福祉部 ・岩手県社会福祉協議会 ・盛岡市 ・滝沢村 ・宮古市社会福祉協議会 川井支所 ・社会福祉法人 育心会 ・ヤマト運輸 株式会社他	2.5年
II	セカンドライフの就労モデル開発研究	辻 哲夫 東京大学高齢社会総合研 究機構 教授	就労	千葉県柏市豊四 季台団地地域	・柏市保健福祉部 福祉政策室 ・独立行政法人 都市再生機構 千葉地域支社 ・千葉大学 環境健康フィールド科学センター ・柏市豊四季台団地自治会 ・特定非営利活動法人 植物工場研究会 ・株式会社 アグリプラス 他	3年



平成23年度研究開発プロジェクト 主な選考方針

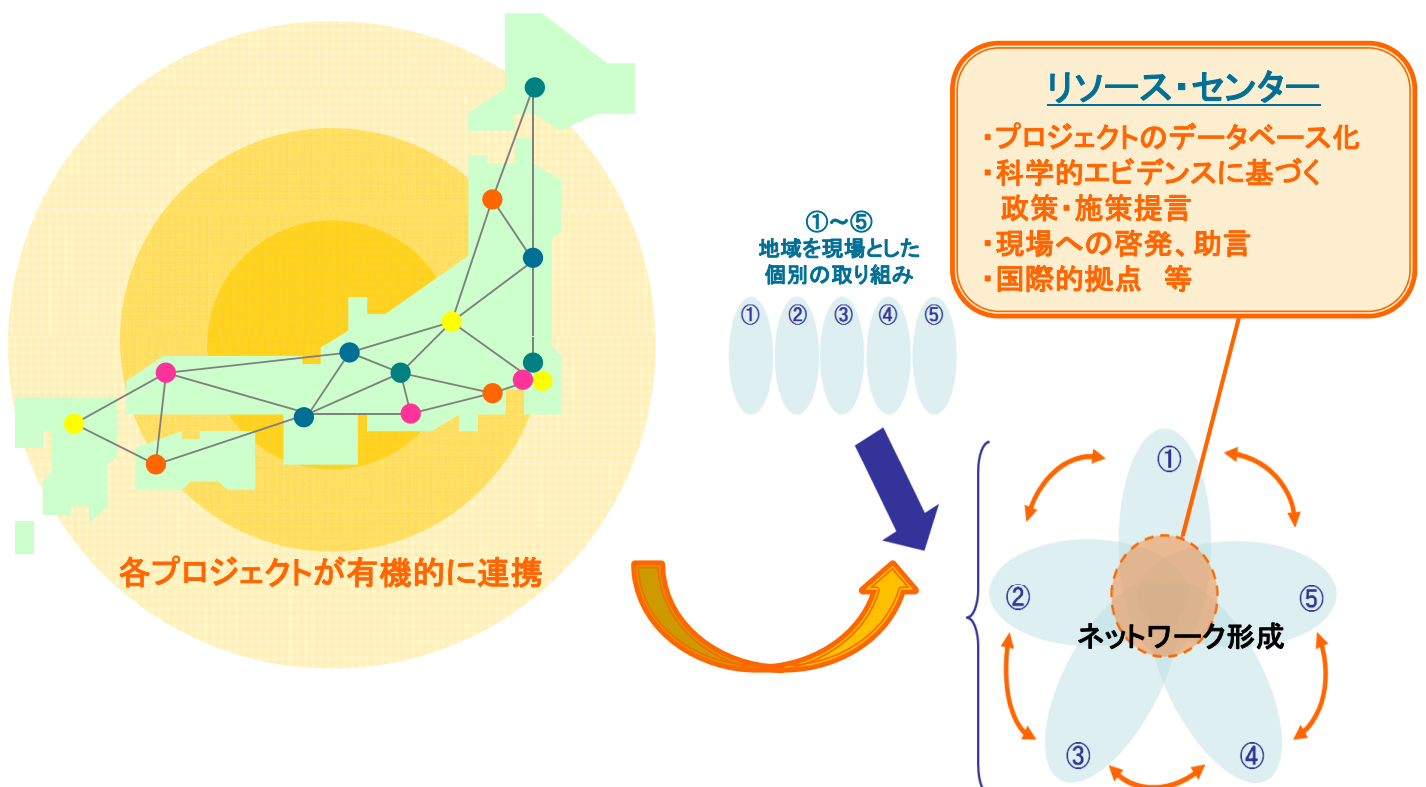
- 本領域で対象とする研究開発プロジェクトの内容であるか
- 社会のニーズに基づいた問題把握がなされているか
- 目標を達成するための研究計画が明確に示されているか
- コミュニティで研究開発プロジェクトを実施するための研究体制が整っているか
- 創出される成果が明確であり、他のコミュニティへの展開可能性があるか

本研究開発領域で対象としない研究

- 機器開発(ロボット、支援機器、計測器、医療機器・・・)、医療技術、医薬品開発、老化メカニズム解明、遺伝子分析等理工学的な要素技術開発が主のもの
- ハード、ソフトの開発(ロボット、シミュレーションソフト・・・)
- 年金制度、医療制度などのシミュレーション分析
- 単なる調査、データ収集、測定

17

プロジェクトのネットワーク形成



18

心から長寿を喜べる社会を コミュニティから提案しよう

領域WEB

<http://www.ristex.jp/korei/index.html>